2La-6

手編みに関する研究　――手編み糸の合糸による試作――

○千葉よう子*　吉田清一郎**
(*仙台白百合短大, **宮城学院女子大)

【目的】合糸については、前報の太さの違う糸と棒針の太さを変えながら編み目ゲージの試料を作り、その際２本どりによる製編を試みた[1)]。この２本による糸色の変化は、編み目ゲージの濃淡やぼかし模様が表れて、予備的な試料を得ることが出来た[2)]。本研究は、毛糸の種類や組み合わせを変えて、実際のスカート製作を試作することで展開した。そこで、二・三の知見が得られたので報告する。

【方法】手編み毛糸の試料は、各種類別の合糸の組み合わせで行った。天然繊維の毛100％や化学繊維のアクリル100％および混紡糸の編み糸は極太・並太・中細３種類を用い、棒針１５号から棒針の号数を変えてスカートを製作した。その編み目の形状は、１本どりから数本どりまでとして編み糸の違いによる編み地の手触り感などを調べた。また、スカートを試作して着用したその評価を試みた。

【結果】合糸による試作の理由は、一本の単色で編む編み目より数本どりの方が編み地に合糸の美しさが表れ、ぼかし模様や濃淡模様などの編み地の利点として挙げられた。その上、合糸の編み地の形状からは、ループの浮き出しにより模様を作り出し、その編み地に糸の安定性が認められた。また、従来の増し目・減らし目を取り入れない製図法を考え、編み糸と棒針の関連を組み込んでみた。その簡易な製図法は、被服構成実習の教材において、型紙教育指導の一方法として効果を上げることが出来た。

1）千葉、吉田：日本家政学会第５２回大会研究発表要旨集、p. 211, (2000)
2）千葉、吉田：日本家政学会 東北・北海道支部会第４５回大会研究発表要旨集、p. 11, (2000)